

3月25日正午必着

明石春浦先生書



林邊鳥語月微下。竹裏花飛春又深（任詢）

花は落ちて春は次第に深く、月の斜めな林邊には鳥が啼いている。

明石幸子書



林葉飄風瑟瑟鳴。人間多少功名夢。化作山房夜雨聲（木下犀潭）

林葉風に飄って瑟瑟として鳴る。虚窓唯見る一燈の明かなるを。人間多少功名の夢。化して作る山房夜雨の聲。作者は肥後の儒者。この詩は世の功名を夢と観じた心境をのべている。

三浦士岳先生書



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

山河四望春 (駱賓王)

山河四望の春

四望は四方の眺望。轉じて一切の方面。

寒梅三兩枝 修竹影參差
悟得昔耶法 江村月曉時 (潘曾瑩)

寒梅三兩枝 修竹影參差
悟り得たり昔耶の法 江村月曉の時

この詩は人の扇を以て畫梅を索むるに應じて之に題せるもので、案頭偶は金冬心の梅花卷あり戯に之に擬せるものである。昔耶は金冬心のこと。

寄司空圖 (僧虚中)

司空図に寄す 僧虚中

逍遙短褐成 一劍動精靈
白晝夢仙島 清晨禮道經
黍苗侵野徑 桑椹汚閑庭
肯要爲隣者 西南太華青

逍遙して短褐成り 一劍 精靈を動かす
白晝 仙島を夢み 清晨 道經に礼す
黍苗 野徑を侵し 桑椹 閑庭を汚す
肯て隣と為る者を要せんや 西南に 太華青し

萌えいつる畔の青さは 寄せて來る潮のごとし 吾をめぐりて (土屋 文明)

半紙部規定課題A

3月25日正午必着

花 煮
欄 茗
就

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

3月25日正午必着

行書

煮茗就
花欄

隸書

煮茗就
花欄

明石春浦先生書

老茗就
在探

老茗就
在探

草書

行草書

林中に住居には格別の楽しみもなく 花壇の垣根のほとりに茶を淹れるほどのこと
雀は北の窓辺に餌を啄んで日は暮れゆき 僧が西の閣をうち開けばひえびえとしている
橋につきあたりつつ、二つの川はすみやかに流れ 月光の下に撞く鐘の音はわびしくもうすれゆく
夜明けにはまたお別れせねばならぬ 前途の険しさをいたずらに悲しむばかり

龍翔喜 胡權訪宿 喩鳥

林棲 無異歡

煮茗就 花欄

雀啄 北窓晚

僧開 西閣寒

衝橋 二水急

扣月 一鐘殘

明發 還分手

徒悲 行路難

竜翔にして胡權が訪ねて宿するを喜ぶ 喩鳥

林棲 異歡無し

茗を煮て 花欄に就く

雀は北窓の晩に啄み

僧は西閣の寒きを開く

橋を衝いて 二水急に

月を扣いて 一鐘残す

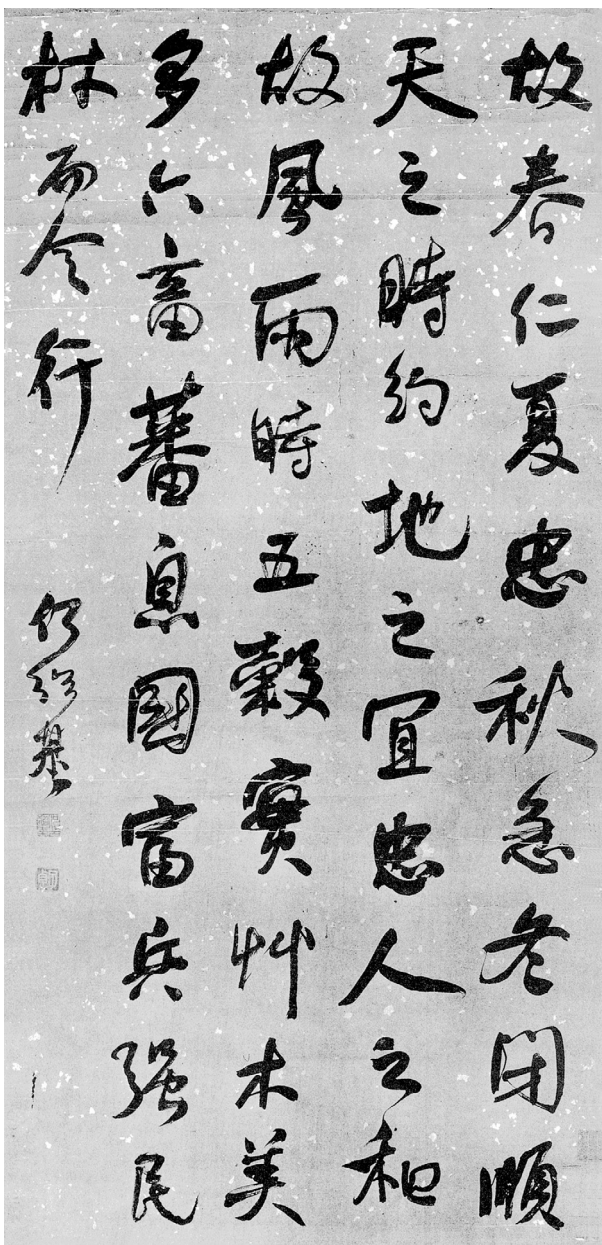
明發 還た手を分つ

徒らに悲しむ 行路の難きを

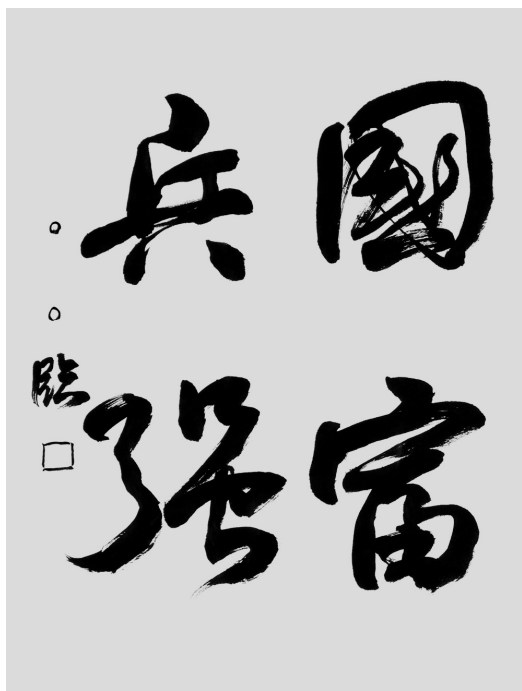
(出典)

朝日新聞社刊
「三体詩」下より

3月25日正午必着



西 墨濤先生臨書



國富兵強

清 何紹基・行書管子禁藏篇

何紹基（嘉慶四年・一七九九〜同治十二年・一八七三年）は、湖南省道州の生まれで、字は子貞、号は東洲、晩年には癡叟と号した。幼い頃は母方の里に預けられ、八歳で北京に上り父母と暮らした。父の何凌漢は戸部尚書（大蔵大臣）にまでなった人で、学問好きで教育熱心であったため、彼は恵まれた環境のもと博い教養を身につけていった。

三十七歳で進士に及第し翰林院に奉職した。その後各職を歴任したのち五十七歳で野に下り、七十五歳の時病に倒れ、蘇州で没した。彼の書の根底にあるのは顔真卿で、最も強い影響を受けた。しかし、阮元・包世臣との出会いによって碑学に目覚め、漢碑や北魏の書の臨模に没頭した。各体を能くしたが、いずれの体も自己の世界に引き込み、形を似せることにのみ捉われず、自らの性霊をもって筆を揮い、独自の書風を形成していった。彼の独特な書の世界を堪能したい。

※「管子」は古代中国春秋時代の管仲に仮託して書かれた、法家または道家・雑家の書物。「禁藏」は宮中の庫のこと。（春濤）

故春仁、夏忠、秋急、冬閉。順天之時、約地之宜、忠人之和、故風雨時、五穀實、草木美、多、六畜蕃息、國富兵強、民材而令行。

何紹基

故春仁夏忠秋急冬閑順
 天之時約地之宜。 範臨

故春仁、夏忠、秋急、冬閑。順天之時、約地之宜、：

△做書参考▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

幽禽不見但聞語
 野草無名都著花
 静かな林の鳥は姿を見せず、ただ声を聞くばかり、名もない野草にも皆花が咲く。

幽禽不見但聞語、野草無名都著花（范成大）

静かな林の鳥は姿を見せず、ただ声を聞くばかり、名もない野草にも皆花が咲く。



び しょう
微 笑

中学一年

雨宮春聲先生書



せい えん
声 援

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



よう
陽

こう
光

小学五年

榎戸春龍先生書



こう
校

か
歌

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

3月25日正午必着



藤田幸春先生書

せん せい 小学三年



細谷春誠先生書

じつ ちよく 小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

つ き 小学一年・幼年



森戸春濤書

ど き 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

春のおとすれを告げる
草花が校庭にさいた

小学五年

そう大な山の頂上より
見わたす田園の風景

小学六年

雪どけ水が季節の移
り変わりを告げている

中学

淡雪が消え梅香る里
山に開き渡る鳥の声

一般(級位)

来ぬ人ももろほの浦の夕まはに
焼くや藻塩のオモくがれつ

一般(段位)

来ぬ人(こぬひと)をまつほの浦(うら)の夕ま(ゆふ)に焼く(や)や藻塩(もろほ)の身(み)もこがれつつ(小倉百人一首・権中納言定家)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

う	に
め	わ
の	に
は	
な	さ
	い
	た

幼年

バ	四
ー	つ
を	ば
見	の
つ	ク
け	口
た	ー

小学一年

小	ゆ
川	き
に	ど
な	け
が	水
れ	が
る	

小学二年

白	お
ざ	ひ
け	な
を	祭
飲	り
ん	に
だ	

小学三年

ざ	長
め	い
た	冬
か	の
え	ね
る	む
の	り
王	か
様	ら
	目

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

石はしる 垂水の上の
 さわらひの もえいつる 春に
 なりにけるかも

石はしる 垂水の上の
 さわらひの もえいつる 春に
 なりにけるかも



松永翠舟先生書

石はしる 垂水の上の さわらひの もえいつる 春に なりにけるかも
 者 能 盈 奈利二介 可母 (万葉集)